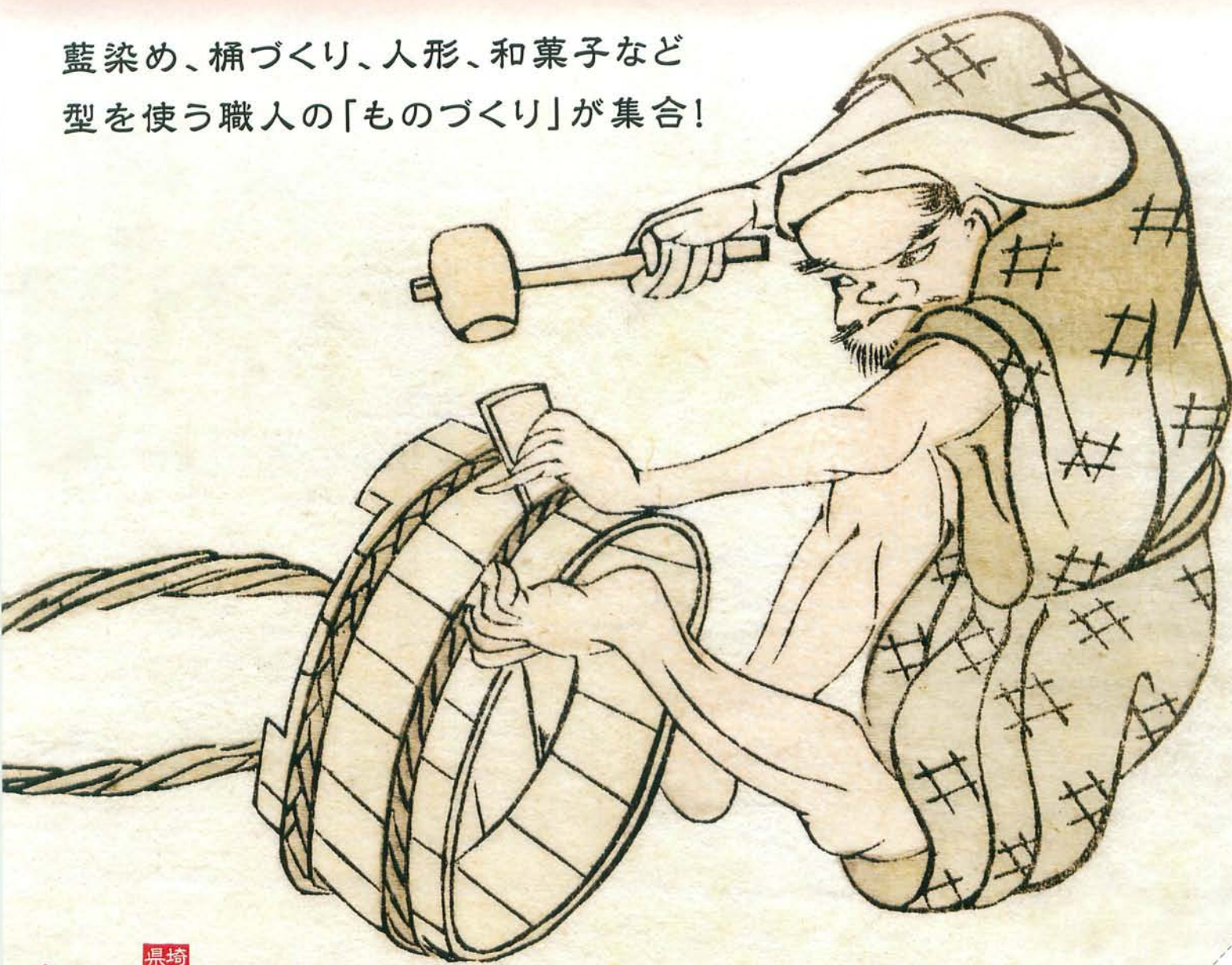


特別展

「型」の職人の「わざ」と「カタ」

—商品の誕生—

藍染め、桶づくり、人形、和菓子など
型を使う職人の「ものづくり」が集合!



埼玉県立 歴史と民俗の博物館

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore
〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219
TEL 048-645-8171 FAX 048-640-1964
JR大宮駅から東武野田線大宮公園駅下車徒歩5分
駐車台数に限りがありますので、できるだけ電車をご利用ください。

平成24年
10月6日(土) ▶ 11月18日(日)
9:00~16:30 休館日:月曜日(10月8日は開館)
観覧受付は16:00まで

料金 一般/600円 高校生・学生/300円
中学生以下と65歳以上の方
障害者手帳等をお持ちの方 / 無料

<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>

【今様職人尽歌合】より 桶造

※本券有効期間は、本博物館開館中(午後24時10分60秒)～平成24年11月18日(日)に限り有効です。他館の観覧券との併用はできません。
※1席につきあ一人(同席)有効。他館の観覧券との併用はできません。
一般 500円 高校生 250円
割引券

幕

末にわが国を訪れたアメリカの提督ペリーは、日本の職人の「ものづくり」の現場を見て、「日本の手工業者は世界に於ける如何なる手工業者にも劣らず練達であつて、(中略)日本人が一度文明世界の過去及び現在の技能を所有したならば、強力な競争者として、将来の機械工業の成功を目指す競争に加はるだらう。」(※)と、その技術を高く評価しました。

ペリーが目当たりした職人達は、手作業で精緻な製品をつくとともに、規格のそろった「商品」を大量に生産する「技」をもっていました。ペリーの予言通り、開国によって西欧の「動力」や「機械」を得た日本は、近代工業を目覚ましく発展させましたが、その礎には職人のものづくり(生産技術)があったのです。

今回の展示では商品の大量生産を支える「型を使ったものづくり」をテーマに、^{ゆかた}浴衣や^{わがさ}和傘、和菓子など衣食住に関わる品々や、こどもの成長を祈願した雛人形や押絵羽子板、張り子人形など埼玉の職人が精根こめて作ったさまざまな製品を、型や製作工程品とともに紹介します。

また、比較資料として文明開化の窓口となった横浜の職人が使った「船の碇」や「赤い靴(西洋靴)」の木型なども紹介します。

熟練の「技」と使いこまれた「型」が織りなす職人の「ものづくり」の世界をどうぞお楽しみください。

(※)引用:土屋喬雄・玉城 肇訳『ペリリ提督日本遠征記(四)』岩波文庫、1955年、pp.127-128

主な展示資料

- 仏具鋳型(鎌倉時代から室町時代・埼玉県教育委員会蔵)
- 職人風俗図屏風(江戸時代中期頃・当館蔵)
- 埼玉県内の型を使った職人の道具・工程品・製品
- 神奈川県指定有形民俗文化財「神奈川県の職人の道具コレクション」(神奈川県立歴史博物館蔵)から型を使った職人道具の資料
- 石臼加工用具(厚木市郷土資料館蔵)
- 横浜開港後の西洋靴等職人の製作用具(横浜市技能文化会館蔵) など

写真解説

【表面】

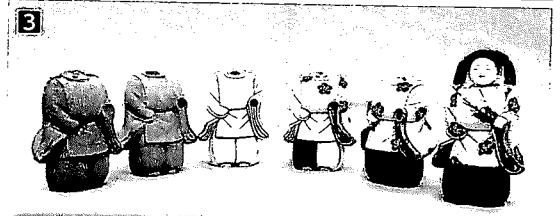
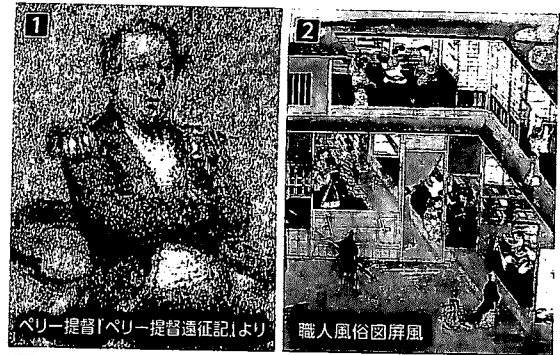
『今様職人尽歌合』(江戸時代)桶造(桶を作る職人)がタガを木づちでしめています。桶造は型を使って正確な弧の側板を作り、水のもれない桶をつくります。

【裏面】

- 1 アメリカのペリー提督は、日本での滞在中、職人のものづくりのレベルの高さに感心し、近代工業社会移行後の発展を『日本遠征記』に予言しました。
- 2 江戸中期の製作とみられ、さまざまな職人の店先・工房の風景が描かれています。このころには手工業者の名称として「職人」という言葉が定着し、現在に通じるような各種の職人が活躍し、規格品を大量に生産する状況もうまれていました。
- 3 型を使って製作するさいたま市岩槻区の江戸木目込人形(菅原道真像「東風」)。
- 4 開国とともに西欧のものづくりの技が日本に入ってきました。これは横浜の靴職人の手による木型を用いた「赤い靴」の木型と工程品・製品です。(横浜市技能文化会館蔵)
- 5 鋳物の製作には古代から型が用いられていました。近代になると木型を用いた機械部品の鋳造が発達していきます。

関連事業

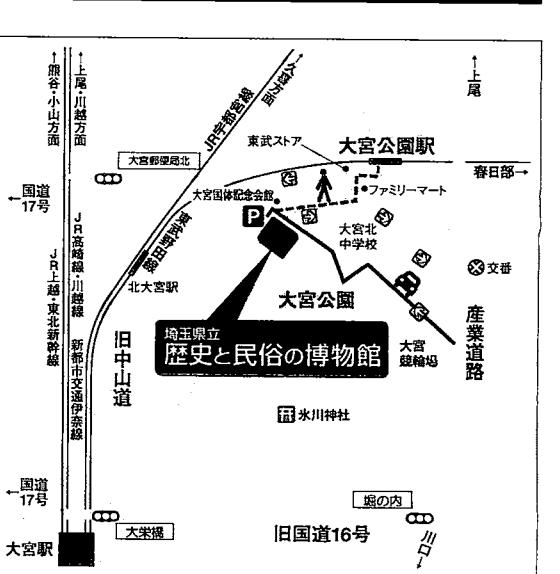
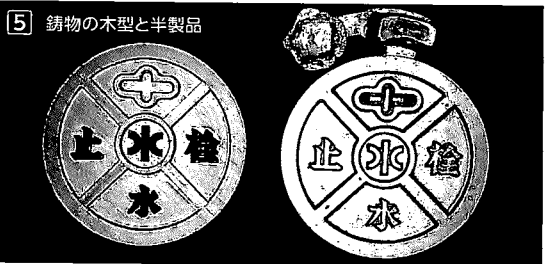
- 記念講演会「ものづくりは楽しい～現代町工場のものづくり～」
10月28日(日) 13:30～15:00 講師/たなかじゅん氏(漫画家)
お申込み/往復はがきまたは電子申請(10月10日消印有効・抽選)
定員/150名 会場/当館講堂
- 民俗工芸実演 (1)「江戸木目込人形作り」11月10日(土) 講師/岩槻人形協同組合
(2)「桶作り」 11月11日(日) 講師/伊藤風呂店
いずれも 時間/11:00～12:00 13:30～15:00
会場/当館エントランスホール 当日受付
- ビデオ上映会「職人のものづくり」
①10月20日(土) ②11月3日(土・祝)
いずれも 時間/13:30～15:00 会場/当館講堂 当日受付
- 展示解説 10月6日(土)・14日(日)・21日(日)
11月1日(木)・4日(日)・14日(水)・18日(日)
いずれも 時間/13:30～14:00 ※要観覧料



江戸木目込人形の工程品と製品



4 横浜の赤い靴 木型と工程品・製品



埼玉県立
歴史と民俗の博物館
Saitama Prefectural Museum of History and Folklore
〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219
TEL 048-645-8171 FAX 048-640-1964
http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/
JR大宮駅から東武野田線大宮公園駅下車徒歩5分
駐車台数に限りがありますので、できるだけ電車をご利用ください。



次回の展覧会
企画展 埼玉歴史街道I
—『新編武蔵風土記稿』の世界—
平成25年
1月2日(水)▶2月11日(月・祝)

割引券アンケート
この割引券の入手元に〇をつけてください。
公共交通機関
新開折込チラシ
他()

ミュージアム
・カレッジ
2012

埼玉大学教養学部・埼玉県立歴史と民俗の博物館共同企画

「職人の世界」

職人は熟練の手業に加えて「型」^{かた}を用いることで、規格や品質のそろった製品である「商品」を大量に生産して人々の暮らしを支えてきました。

この公開講座では、わが国および東アジアにおける「職人の世界」を、原始から近代へという歴史の流れのなかで、民俗学、考古学、歴史学という幅広い視点からとらえてみたいと思います。あわせて埼玉県立歴史と民俗の博物館で平成二十四年十月六日〜十一月十八日に開催される特別展「職人のわざとカタ―商品の誕生―」もご観覧ください（観覧料が別途必要となります）。

第1回 10月19日(金)

「職人のわざとカタ」

服部 武

(埼玉県立歴史と民俗の博物館 主任学芸員)

第2回 11月2日(金)

「江戸時代の職人さんとお公家さんの意外な関係―北武蔵の鋳物師と蔵人所小舎人真継家」

井上 智勝 (埼玉大学教養学部准教授)

第3回 11月9日(金)

「中世の職人」

根ヶ山 泰史

(埼玉県立歴史と民俗の博物館 学芸員)

第4回 11月16日(金)

「東アジアの初期金属器と製作技術」

中村 大介 (埼玉大学教養学部准教授)

(時間は各回とも13:30~15:00・開場13:00~)

主催
会場

埼玉大学教養学部・埼玉県立歴史と民俗の博物館
埼玉県立歴史と民俗の博物館 講堂

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 TEL 048-645-8171
(東武野田線大宮公園駅下車 徒歩5分)

受講料
募集定員
申込方法
お問合せ

無料 (特別展観覧には観覧料が別途必要となります)

150名

事前申し込みは不要ですので、当日ご自由に聴講していただけます。
ただし、会場の都合上先着150名様までとさせていただきます。

〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255
埼玉大学教養学部支援室総務係 TEL 048-858-3042

